

# コウノトリ但馬空港のあり方懇話会 第6回会議

## 説明資料

1. 第5回懇話会のご意見を踏まえた論点・課題の整理
2. 現状確認

# 1. 第5回懇話会のご意見を踏まえた

## 論点・課題の整理

- (1) 第5回懇話会のまとめ
- (2) 論点・課題の整理

# 1.(1)第5回懇話会のまとめ

論点：但馬・京丹後地域の持続発展に向け、コロナ禍を経た但馬空港が果たす役割とあるべき姿を再確認

## 《第5回懇話会のまとめ》

1. 地域活性化や観光振興等のために但馬空港が果たす役割は、コロナ禍を経た今でも大きい。

2. 能登半島地震を契機として、空港が果たすべき防災面での役割がクローズアップされており、但馬空港についても、より一層防災機能に着目する必要がある。

3. 空港がその役割を果たすには、法令で定められたRESA整備が欠かせないが、大きな財源が必要。地元を中心とした利用促進活動の現状を確認し、今後どのように進めていくのかが重要課題である。一方、滑走路延伸について要望があったが、財源等の観点から現実的ではないのではないかという意見もあった。

4. 就航率を高め、安定的に就航することが重要である。

5. 東京便実現への期待がある一方、神戸・関空・成田等、新たな路線拡大の可能性を考えるべきではないかという意見もあった。

### 6. その他意見

外国人観光客対応、マーケティングの強化、バス・空飛ぶクルマ・ドローンの活用、二次交通・ネットワークの強化、空港ターミナルビルの更なる利活用 等

## 《主なキーワード》

1.	伊丹経由、首都圏・地方へのアクセスが便利
	ビジネス利用の実績(日帰り大阪研修等も)
	ビジネス需要の世界的な減少傾向
	移動意欲を促す取組みが必要
	少子高齢化
	地域外からの誘客で交流人口増が必要
	山陰近畿道・北近畿豊岡道の整備
	道路を使った広域観光開発、地域連携
	大学開学、豊岡演劇祭等の新たな需要
	時間価値を重視する方へのツール
2.	観光の玄関口
	ドローン等の新手段の地域防災・物流活用
	豊岡病院との連携
	大規模災害時の物資集積・輸送拠点
	防災拠点の強化(安全安心なまちづくり)
3.	地上交通寸断時の点と点を結ぶ拠点網
	定期便運航が利用促進等の検討の大前提
	滑走路端安全区域(RESA)の対応
	滑走路短縮対応は運航上の制約発生(RESA)
	運賃助成をはじめとした利用促進
	新たな利用促進施策・需要の掘り起こし
	2,000m級滑走路の実現に期待
	首都圏、アジアとの直接的な連携
費用対効果(滑走路延伸)	

3.	乗継を前提とした利便性追求(当面)
	定時性確保・安定的な運航(厳しい就航率)
4.	ナビゲーション技術の向上・システム導入
	欠航による機会損失
5.	東京直行便
	伊丹便以外の路線実現
	朝夕2便からの増便
	但馬地域の交通ネットワークの進化(開港時と変化)
	インバウンドの獲得
	海外と繋がる空港(神戸、関空、成田等)
6.	城崎温泉を訪れる外国人観光客
	インバウンドの国内移動手段(航空機利用少)
	飛行機・高速バス・路線バスの交通結節点
	二次交通の対応
	地域と他拠点を結ぶ広域ネットワークのハブ
	空飛ぶクルマの社会実装
	芝生広場等の活用(子育て世代対象の施設等)
	行政区域を超えた空港発着ターミナル設定
	マーケティング活動強化(旅行目的地への選択)
	ターミナル等の設備改善(老朽化)
集客交流拠点としての魅力づくり	
空港を地域のミニテーマパークに	
スポーツツーリズムの拠点	
地元の産業に資するような空港の活用	

※意見の詳細は第5回懇話会の議事概要を参照ください

# 1.(2)論点・課題の整理

➤ 但馬・京丹後地域の持続発展に向け、コロナ禍を経た但馬空港が果たす役割とあるべき姿

《但馬空港が果たす役割（第5回懇話会のご意見・ご指摘より）》

- ビジネス、産業、文化、学業等、交流人口の拡大を支える高速交通インフラ
  - 時間価値を重視する方に対する移動手段の提供
  - 観光の玄関口
  - 但馬空港を中心とした地域と他拠点を結ぶ広域ネットワークのハブ
  - 飛行機と高速バス、路線バス、新たなモビリティ（空飛ぶクルマ）等との結節機能
  - 空飛ぶクルマ、ドローン物流の離発着拠点
  - 災害時の物資集積・輸送拠点（広域防災拠点）、地上交通寸断時の点と点を結ぶ輸送
  - 病院と連携した搬送拠点（SCU）
  - 多目的ホール、空港公園等の施設を活用したイベントやスポーツツーリズム、市民交流等の拠点
  - 若年層への搭乗体験の場の提供等による将来需要の獲得
- ・・・等



《コウノトリ但馬空港のあるべき姿（たたき台）》

人とモノと地域をつなぐ空の玄関口

地域の安全安心を支える防災拠点

信頼性の高い安定した航空ネットワークを有する空港

地域に開かれた賑わい、体験のある空港

地域の多様なモビリティの結節点

・・・等

# 1.(2)論点・課題の整理

## あるべき姿の実現に向けた、具体的な取り組み方策

《第5回懇話会の主なキーワード (p3) を分類》

### ● 航空機利用の特徴

- 伊丹経由、首都圏・地方へのアクセスが便利
- ビジネス利用の実績(日帰り大阪研修等も)
- 時間価値を重視する方へのツール

### ● 地域・航空業界の現状

- 少子高齢化
- ビジネス需要の世界的な減少傾向
- 城崎温泉を訪れる外国人観光客
- インバウンドの国内移動手段(航空機利用少)
- 但馬地域の交通ネットワークの進化(開港時と変化)
- 山陰近畿道・北近畿豊岡道の整備
- 大学開学、豊岡演劇祭等の新たな需要

### ● 必要な対応・役割

- 移動意欲を促す取り組みが必要
- 地域外からの誘客で交流人口増が必要
- 観光の玄関口
- 定期便運航が利用促進等の検討の大前提
- 地域と他拠点を結ぶ広域ネットワークのハブ
- 地元の産業に資するような空港の活用

### ● 取組方策

#### ➢ 旅客増加の取組み

- 運賃助成をはじめとした利用促進
- 新たな利用促進施策・需要の掘り起こし
- 行政区域を超えた空港発着ゲート設定
- マーケティング活動強化(旅行目的地への選択)
- 道路を使った広域観光開発、地域連携
- 二次交通の対応
- インバウンドの獲得

#### ➢ 新たな路線展開

- 東京直行便
- 伊丹便以外の路線実現
- 海外と繋がる空港(神戸、関空、成田等)
- 朝夕2便からの増便
- 2,000m級滑走路の実現に期待
- 首都圏、アジアとの直接的な連携
- 費用対効果(滑走路延伸)
- 乗継を前提とした利便性追求(当面)

#### ➢ 国際的な安全基準への適応

- 滑走路端安全区域(RESA)の対応
- 滑走路短縮対応は運航上の制約発生(RESA)

#### ➢ 就航率

- 定時性確保・安定的な運航(厳しい就航率)
- ビッグデータ技術の向上・システム導入
- 欠航による機会損失

#### ➢ 空港の賑わいづくり・空港施設の活用

- 芝生広場等の活用(子育て世代対象の施設等)
- 集客交流拠点としての魅力づくり
- 空港を地域のミニテーマパークに
- スポーツツーリズムの拠点
- 飛行機・高速バス・路線バスの交通結節点
- 空飛ぶクルマの社会実装
- ターミナル等の設備改善(老朽化)

#### ➢ 防災機能

- 防災拠点の強化(安全安心なまちづくり)
- 豊岡病院との連携
- 大規模災害時の物資集積・輸送拠点
- 地上交通寸断時の点と点を結ぶ拠点網
- ドローン等の新手段の地域防災・物流活用

〔緑塗〕 前回の懇話会でのご意見等を踏まえ、現在の状況を確認

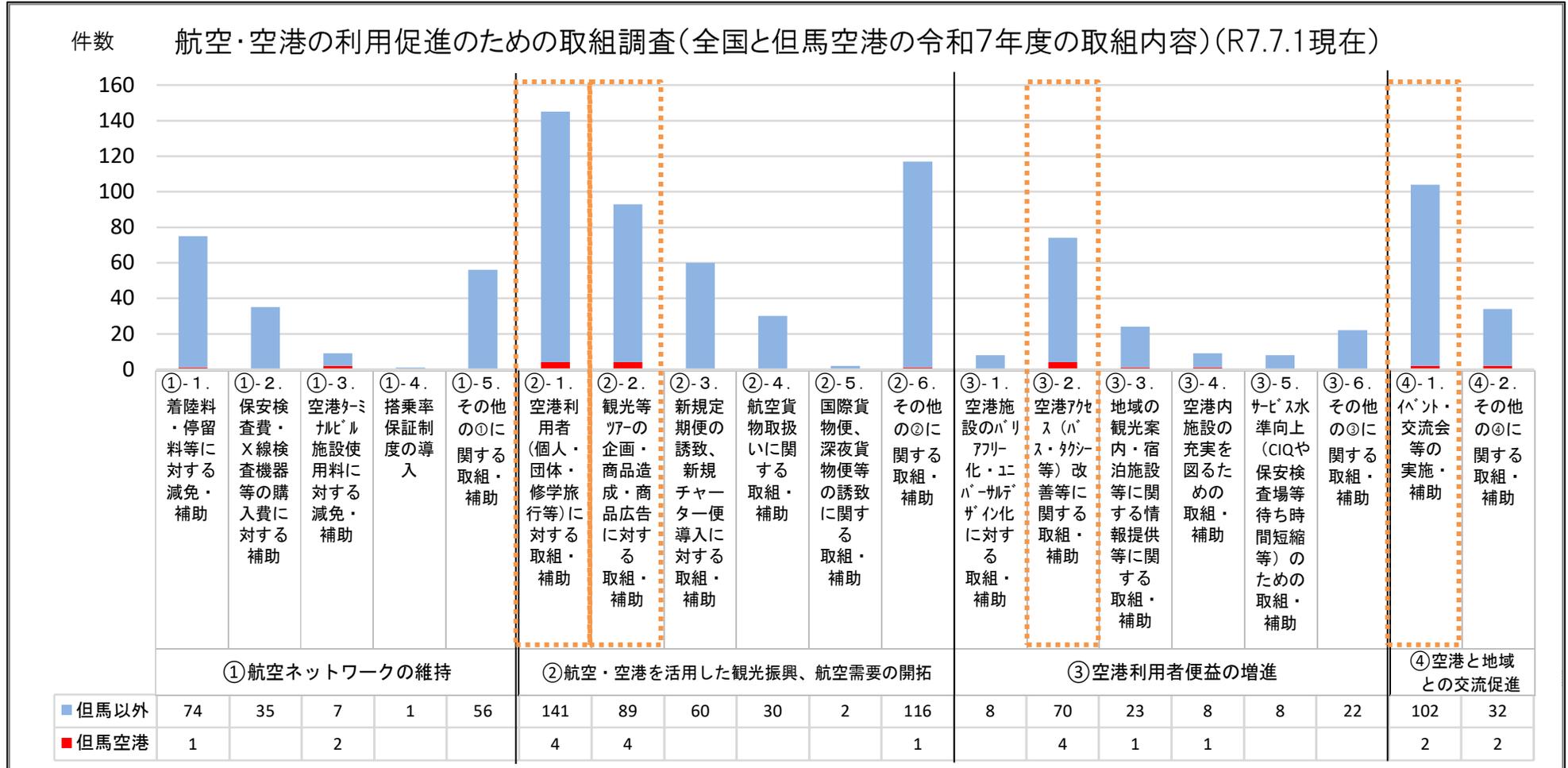
## 2. 現状確認

- (1) 利用促進施策の検討
- (2) 新たな路線展開
- (3) 防災機能の向上
- (4) 就航率の向上
- (5) 空飛ぶクルマの社会実装
- (6) 二次交通の充実

## 2. (1) 利用促進施策の検討 [全国の取組状況]

〔前回意見等〕 地元を中心とした利用促進活動の現状を確認し、今後どのように進めるかが重要課題。

- 全国の航空・空港の利用促進のための取組事例では、空港利用者や観光ツアー企画造成、空港アクセス改善への補助、イベント交流会の実施等の件数が多く、但馬空港でも実施



## 2. (1) 利用促進施策の検討〔他空港の取組事例①〕

大分類	小分類	内容
① 航空 維持 ネット ワーク	①-1. 着陸料・停留料等 に対する減免・補助	○着陸料・保安料の減免・奨励金の支給 ＜対象：国内線/国際線/新規路線/増便分/チャーター便/旅客コンピューター機/貨物便/深夜早朝・オフピーク便 等＞ ○特定路線の運航経費補助・割引 ＜対象：新規就航会社/離島路線/赤字路線/国際定期便 等＞ ○オフピークインセンティブ対象路線のプロモーション費支給
	①-2. 保安検査費・X線検査機器等 の購入費に対する補助	○保安検査人件費・委託費、地上監視業務費用の補助 ○保安検査装置更新経費の助成 ○グランドハンドリング関連事業者の人材確保の取組支援 ＜例：住宅手当補助、離職防止支援、職場環境改善経費補助、外国人材受入支援＞
	①-3. 空港ターミナルビル施設 使用料に対する減免・補助	○ターミナルビル業務用施設、チェックインカウンター等使用料の補助・軽減
	①-4. 搭乗率保証制度の導入	○目標搭乗率と実績搭乗率の関係により、航空会社への保証金支払いまたは航空会社からの販売促進
② 航空 空需・ 要空 港開 拓を 活用 した 観光 振興、	②-1. 空港利用者 (個人・団体・修学旅行等) に対する取組・補助	○航空運賃の助成・キャッシュバック、団体旅行費用の助成 ＜対象：地元住民/離島住民/通院/教育旅行/学生/会員企業/ビジネス/当日予約者/リピーター/乗継リピーター/ 移住相談・就活・婚活・農業就労事業等参加者/地域内宿泊者/国際線利用者/閑散期利用 等＞ ○二次交通費用の助成 ＜対象：地域内宿泊者/スポーツ大会参加者/教育旅行/インバウンド 等、 交通手段：バス/高速代 等＞ ○特典の提供 ＜対象：インバウンド/企業/アプリ会員/サポートクラブ 等、内容：主要観光地入場無料引換券/周遊クーポン/駐車券/イベント参加＞ ○空港・定期路線・乗継路線のPR ＜手段：ブース出展/イベント協賛/街頭キャンペーン/企業訪問/新聞・広告・テレビ・ラジオ/広報誌/チラシ/インフルエンサー活用/ SNS/デジタルサイネージ/グッズ作成・配布＞ ○歓迎セレモニー、特産品等進呈 ○国際線利用者のパスポート取得・更新費用補助
	②-2. 観光等ツアーの企画・ 商品造成・商品広告に対する 取組・補助	○旅行商品の造成・広告費用の助成 ＜対象：地元団体の実施/地域内宿泊/首都圏発/富裕層向け/国際線乗継利用 等＞ ○バス借り上げ費用の助成 ○FAMツアー・セミナー(教育旅行誘致 他)の実施、情報発信
	②-3. 新定期便の誘致、新規 チャーター便導入に対する取組・補助	○チャーター便/新規就航便の運航経費、旅行商品造成の補助、航空会社等との調整 ○需要喚起イベント・プロモーション活動
	②-4. 航空貨物取扱いに関する 取組・補助	○貨物搭載量等に応じた荷主・フォワーダー・通関業者への補助 ＜対象：国際便輸出入/前年度増量分/新規利用/他空港からの切替/大型貨物 等＞ ○空港周辺への航空貨物用施設整備に対する補助 ○国際的な輸送品質認証制度の認証取得
	②-5. 国際貨物便、深夜貨物便等 の誘致に関する取組・補助	○着陸料、地上支援業務等の費用の補助 ○物流事業者等の貨物上屋賃借料・設備リースの支援
	②-6. 上記以外の②に関する 取組・補助	○職員の航空機利用の奨励

※航空・空港の利用促進のための取組調査(東京航空局管内)、同(大阪航空局管内) 令和7年7月 国土交通省航空局 に基づき、兵庫県作成

## 2. (1) 利用促進施策の検討〔他空港の取組事例②〕

大分類	小分類	内容
③ 空港 利用者 便益の 増進	③-1. 空港施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化に対する取組・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トイレのUD化(音声案内・手すり・オールジェンダー他)</li> <li>○自動運転パーソナルモビリティの導入</li> <li>○UD対応のWEBサイト、バリアフリー情報のHP掲載</li> </ul>
	③-2. 空港アクセス(バス・タクシー等)改善等に関する取組・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次交通に係る広報PR &lt;手段:時刻表/チラシ/案内板/ルート検索ウェブツール 等&gt;</li> <li>○バスの運行 &lt;内容:連絡バス運行/定期観光バス運行/無料運行/深夜早期運行/欠航時アクセスバス運行 等&gt;</li> <li>○タクシー配車アプリへの対応</li> <li>○タクシーの運賃助成 &lt;内容:オンデマンドタクシー/リムジンタクシー/早朝便乗合タクシー 等&gt;</li> <li>○隣県空港とのレンタカー相互乗捨て支援</li> <li>○カーシェアの配置</li> <li>○駐車場の設置 &lt;内容:料金軽減/事前予約サービス導入&gt;</li> </ul>
	③-3. 地域の観光案内・宿泊施設等に関する情報提供等に関する取組・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広告・PR &lt;手段:HP/SNS/バナー広告/特設サイト/広報誌/機内誌/国際線機内動画&gt;</li> <li>○観光地マップの設置、パンフレットの配架、専用案内ブースの設置</li> <li>○閑散期の観光コンテンツの造成</li> </ul>
	③-4. 空港内施設の充実を図るための取組・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の人気店等のポップアップストアの設置</li> <li>○空港内ロビーの図書館環境整備</li> <li>○屋外ライブカメラによる情報発信</li> </ul>
	③-5. サービス水準の向上(CIQや保安検査場待ち時間短縮等)のための取組・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保安検査後の手荷物整理台設置、検査用トレイ増設</li> <li>○多言語対応AI案内ツールの導入、出入国審査窓口への通訳派遣</li> </ul>
と④ の空 交港 流と 促地 進域	④-1. イベント・交流会等の取組・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空港活用・観光推進・路線就航地PRのためイベント開催 &lt;例:空の日/スカイフェスティバル/開港周年記念/クリスマス/イルミネーション/季節装飾/パネル展/フォトコンテスト/学生絵画・作品展示/遊覧飛行/物産展&gt;</li> <li>○首都圏、就航先でのイベント出展</li> <li>○空港施設見学・滑走路見学・職場見学・インターンシップ受入</li> <li>○地域のプロチームとのオフィシャルパートナーシップ協定締結</li> </ul>

※航空・空港の利用促進のための取組調査(東京航空局管内)、同(大阪航空局管内) 令和7年7月 国土交通省航空局 に基づき、兵庫県作成

➤ 各取組の内容における「対象」「手段」等は、各空港の形態により様々である

## 2.(2)新たな路線展開 [チャーター便の運航]

〔前回意見等〕 新たな路線拡大の可能性を考えるべきではないか。

➤ コウノトリ但馬空港 – 新潟空港の初めてのチャーター便を3月に運航予定

・航空会社	トキエア(株) 拠点:新潟空港
・日程	令和8年3月17日～3月19日 (2泊3日)
・機材	ATR42-600(46人乗り)
・主な訪問予定 (但馬側)	天橋立、天橋立傘松公園、城崎温泉、 餘部駅・余部鉄橋、鳥取砂丘、中国庭園燕趙園、はわい温泉、竹田城跡、かばんの館など
・主な訪問予定 (新潟側)	今代司酒造、弥彦山ロープウェイ、越後一宮 弥彦神社、岩室温泉、道の駅ながおか花火館・長岡花火ミュージアム、新潟せんべい王国、豪農の郷・北方文化博物館、月岡温泉、瓢湖水きん公園、新潟ふるさと村、朱鷺メッセなど

コウノトリ但馬空港→新潟空港  
チャーター直行便!  
片道わずか約90分!

トキエアで行く  
**新潟満喫**

令和8年3月17日(火)新潟2泊3日  
¥134,000部 ¥136,000部 ¥165,000部

全田バス株式会社 TEL.079-662-2131

NEW 2泊3日 兵庫・鳥取 1泊2日 1泊1日

★これよ初!トキエア直行チャーター便でがけ!

新潟空港→コウノトリ但馬空港

まるで顔が天へと昇って行くかのような眺め  
天橋立

天空の城  
**竹田城・天橋立と城崎温泉**

文豪たちが愛した名湯  
城崎温泉

開湯1300年!  
浴衣と下駄でカランコロン  
外湯めぐり

絶景  
鳥取砂丘 砂丘と荒ぶる騎馬のチカラ

歴史文化  
新田神社 新田神社 新田神社

名湯 1泊1日 選べる旅館 旅行プラン

出発決定! 3/17(火)

¥154,000部 ¥134,000部 ¥128,000部

全田バス株式会社 TEL.079-662-2131

(参考) 近年のチャーター便の運航 : R2年度 長崎、R3・R4年度 鹿児島、R5年度 松山

## 2.(3)防災機能の向上 [発災時の空港の役割]

〔前回意見等〕能登半島地震を契機として、但馬空港もより一層防災機能に着目する必要がある。

### ➤ 発災時の空港の役割を確認

- ✓ 災害発生時、被災地域内・被災地域外の空港ともに経過時間に応じた重要な役割が期待される

### 発災後の時間経過

被災地域内の空港

機能保持  
早期復旧  
避難

- ・BCP（空港業務継続計画）に基づく対応

救急・救命  
捜索・救助  
情報収集

- ・ヘリが駐機可能な施設の確保
- ・広域防災拠点・SCUとの連携

緊急物資  
人員輸送

- ・固定翼機が駐機可能な施設の確保

民間航空

- ・民航機が駐機可能な施設の確保

定期便

- ・定期便が被災前と同レベルで運航

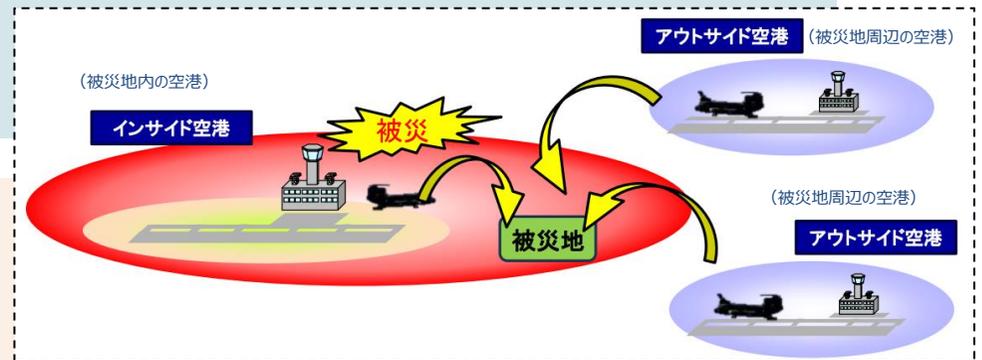
被災地域外の空港

災害応援

SCU（広域医療搬送拠点臨時医療施設）  
救援機の駐機・給油拠点

- ・後方支援の準備

代替輸送拠点





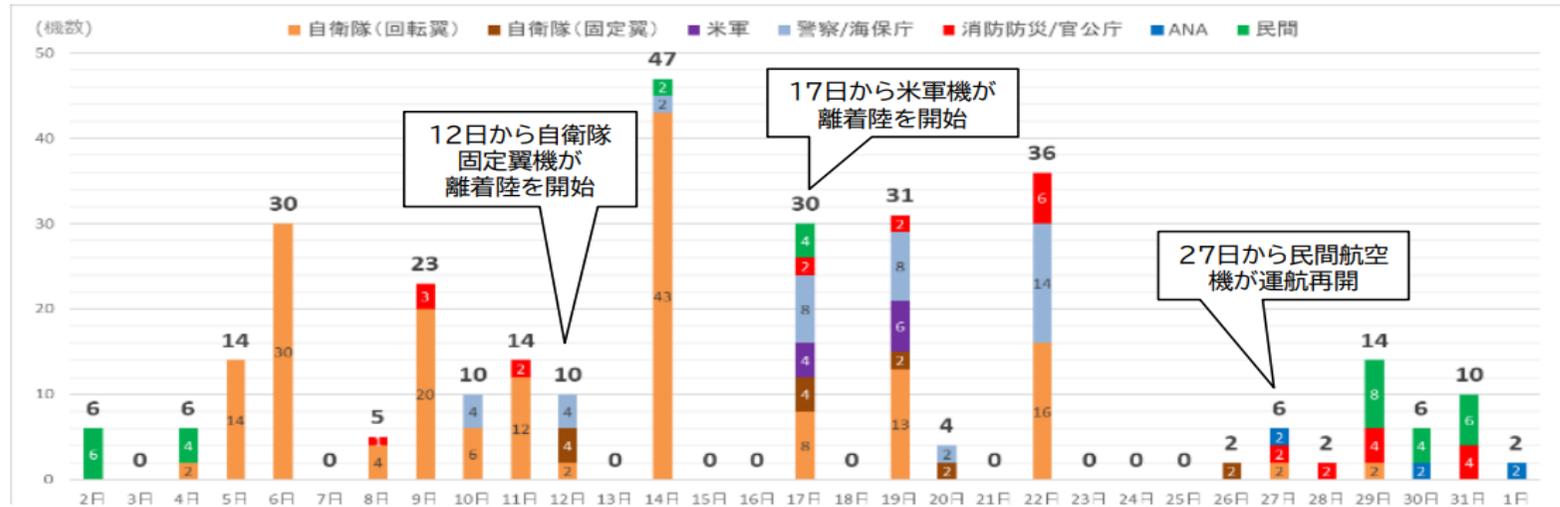
## 2.(3)防災機能の向上〔発災時の空港の活用事例〕

➤ 被災地域内の救援拠点として機能した事例

✓ H16年台風23号時には、豊岡市街地が浸水被害を受ける中、但馬空港は救援拠点として機能

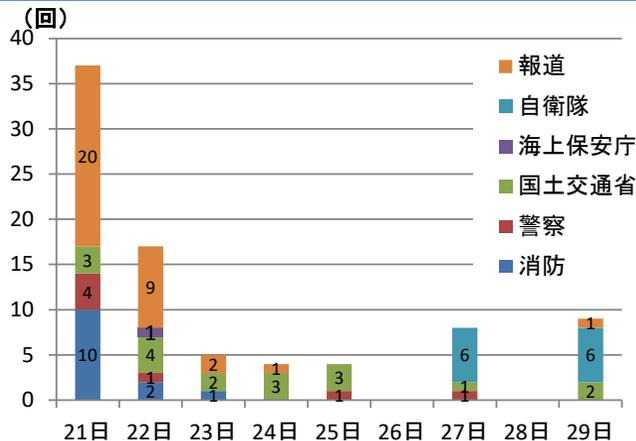
◆ R6能登半島地震  
(能登空港)

救援機(ヘリ・輸送機等)の離着陸回数 (1/2~2/1の合計:308回)[航空局データ]



[出典] 令和6年度「空港における自然災害対策に関する検討委員会 検討委員会分科会 (R6.7.31 航空局)

◆ H16台風23号  
(但馬空港)



公用機・民間機の着陸回数 (10/21~29の合計:84回)

		計
民間機	報道	33
公用機	自衛隊	12
	海上保安庁	1
	国土交通省	18
	警察	7
	消防	13
		84



## 2.(3)防災機能の向上 [防災拠点に必要な施設・機能]

➤ 空港が災害時に防災拠点として機能するために必要な施設

✓ 但馬空港は、必要な施設を概ね有している

● 能登半島地震を踏まえ、空港を災害時の広域的な救援・物資輸送等の拠点として位置付けて、災害時においても空港が輸送拠点等としてその機能を発揮できるようにすることが重要。

◆ 空港が災害時に防災拠点として機能するために必要となる施設等

基本施設等

基本施設(滑走路、誘導路、エプロン)、庁舎・管制塔、消防庁舎、旅客ターミナルビル等

給油施設

救援機(自衛隊、消防、警察、海保、ドクターヘリ等)に航空機燃料を供給する給油施設

支援活動スペース

救援機(自衛隊、消防、警察、海保、ドクターヘリ等)の駐機場所、支援車両の駐車場等

防災機能

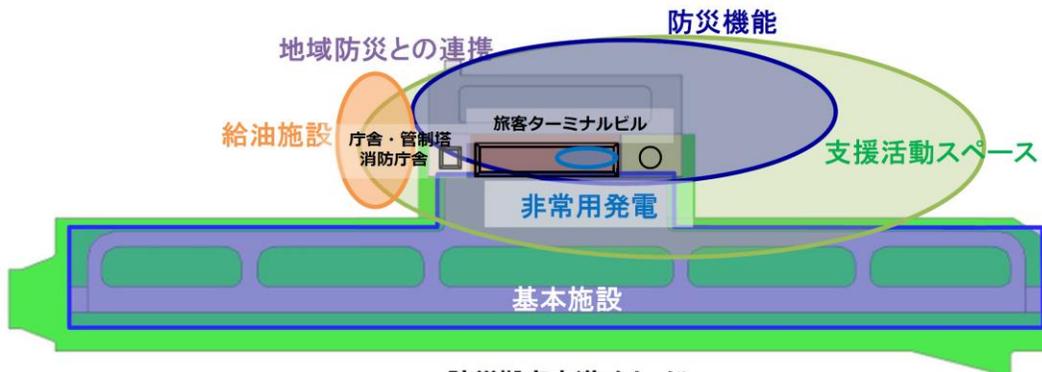
空港を拠点に背後地を支援するための貯水タンク、支援物資やSCU(臨時医療施設)の倉庫等のスペース、防災トイレ等

非常用発電

滞留者や避難者が避難場所として使用する旅客ターミナルビル等の電源の確保

地域防災との連携

近隣地方自治体の地域防災計画との連携



防災拠点空港イメージ

出典:「空港における自然災害対策に関する検討委員会」令和7年度検討委員会 国土交通省航空局 R7529 を加工

### 但馬空港の現有施設

⇒1,200m滑走路、3つのエプロン、格納庫、ターミナルビル

⇒航空機燃料用給油施設

⇒防災拠点(駐屯ゾーン、物資集積配達ゾーン)、臨時駐車場1.8ha、空港公園1.9ha

⇒但馬広域防災拠点(備蓄倉庫)、但馬空港SCU(除雪車庫)

⇒航空灯火用自家発電設備

(ターミナルビル用非常用発電設備なし)

⇒兵庫県地域防災計画「ブロック拠点」豊岡市地域防災計画「空路交通の確保」



## 2.(3)防災機能の向上〔令和8年度からの取組み〕

〔前回意見等〕能登半島地震を契機として、但馬空港もより一層防災機能に着目する必要がある。

法令で定められたRESA整備が欠かせない。ターミナルビル等の設備面の改善も必要。

➤ 令和8年度より、コウノトリ但馬空港の防災機能向上に着手。併せて滑走路端安全区域整備を実施

兵庫県 令和8年度当初予算(案) (主要施策) 令和8年2月12日 より

### 【新】 ■コウノトリ但馬空港の防災機能向上 160,000千円

- 能登半島地震の教訓や発生が迫る南海トラフ地震を踏まえ、大規模災害時の空路による物資・支援要員等の受入れ拠点等となる但馬空港の防災機能向上事業を実施
- 併せて、空港機能維持のため、滑走路端安全区域 (RESA) 整備事業を法定基準に基づき実施

令和8年度当初予算 主要施策

II 安全安心な暮らしを守る

財源内訳

国庫	特定	起債	一般
40,000	0	119,800	200

61

#### ①但馬・北近畿地域における災害対応拠点としての機能充実

##### (1) 滞留者・避難者の安全確保、応援者の常駐場所確保

○A2-BCPに基づく滞留者等の避難場所や災害応援者の常駐場所となるターミナルビルの施設機能を確保

- 〔ターミナルビルの更新・強化等実施設計 C=60,000千円〕  
〔非常用発電の確保、空調設備更新、吊天井対策〕

##### (2) 周辺地域の消防活動支援

- ・空港消防車更新

##### (3) 救援活動のための給油体制確保

- ・給油施設の更新
- ・車両更新 (給油車)

##### (4) 救援機の整備支援 (格納庫を活用)

- ・格納庫修繕



空港消防車



給油施設



格納庫

#### ②南海トラフ地震など大規模災害時における災害支援機能の発揮

##### (1) 旅客輸送 (代替輸送) 機能の確保

○発災時には、日本海側の被害の少ない空港と連携し、空路による物資・支援要員等を受入れ

○但馬空港を離着陸可能なATR42を最大活用するため、RESAを片側40⇒90mに拡張

- 〔RESA実施設計〕  
〔C=100,000千円〕



##### (2) 離着陸機能の継続

- ・車両更新 (除雪関係車両)
- ・LOC移設

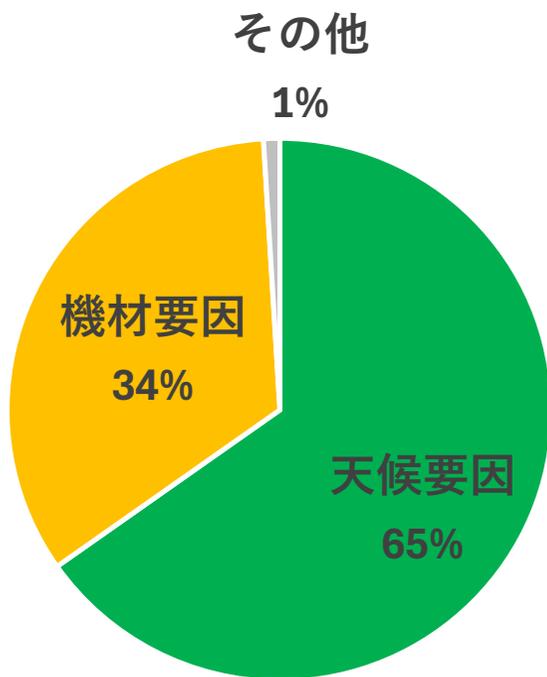
## 2.(4)就航率の向上〔令和7年 欠航要因分析〕

〔前回意見等〕最近は天候によらない欠航も多いと聞いており、定時性確保と安定的な運航を望む。

➤ 令和7年は、前年に比べ機材要因による欠航の割合が増加

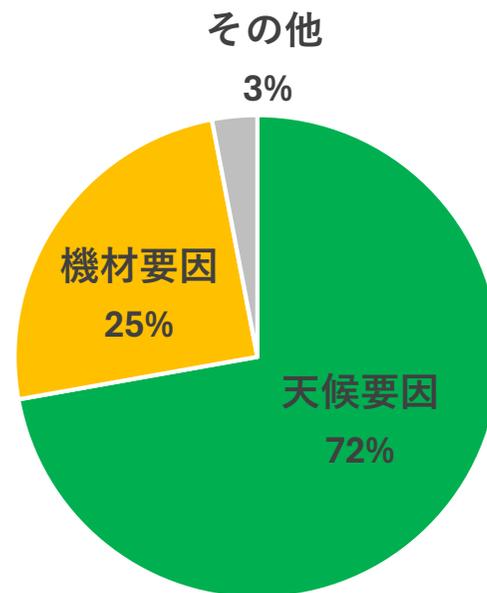
### 欠航要因の割合

令和7年1月～12月



<参考>

令和6年1月～12月



天候要因：但馬空港周辺の悪天候、伊丹空港周辺の悪天候、(但馬路線の)航路上の悪天候、  
台風、九州悪天候、機材故障（雷、強風）、機材繰り（天候要因）

機材要因：機材点検・整備、機材故障（電気系統等）、機材繰り（機材要因）

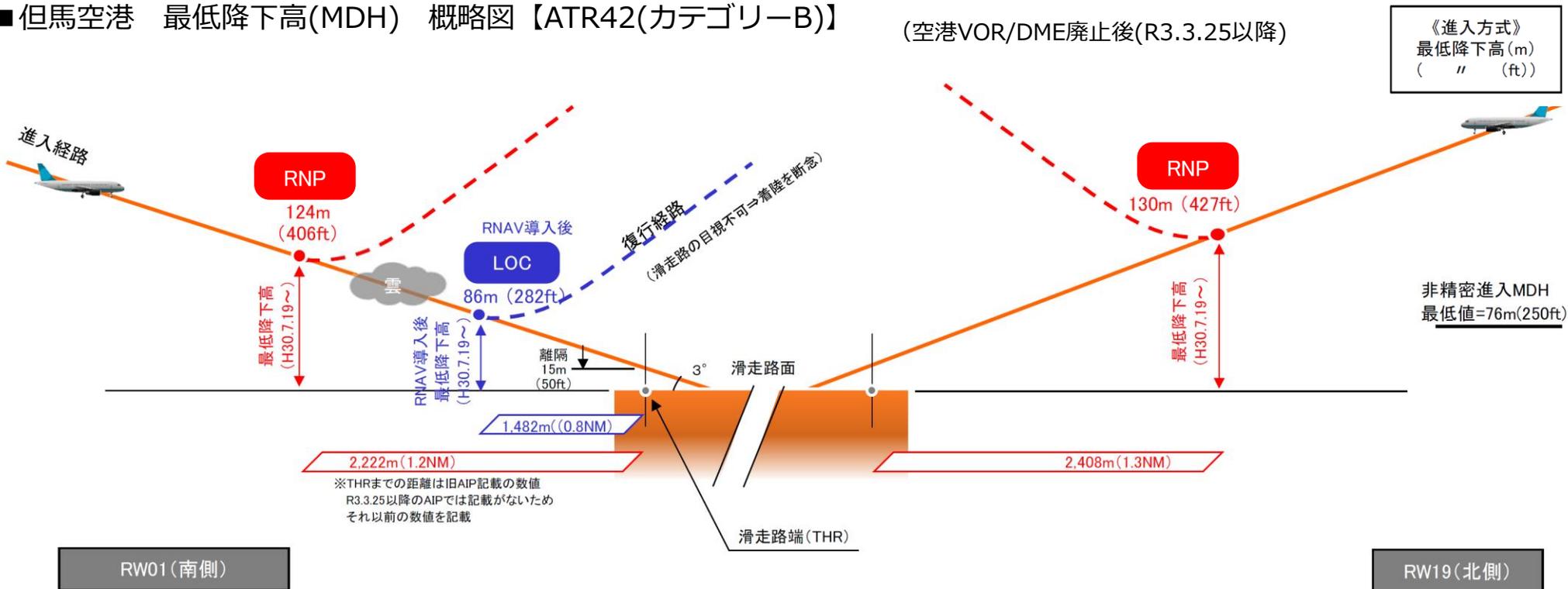
その他：バードストライク等

## 2.(4)就航率の向上 〔天候要因への対応:但馬空港の現状〕

- 但馬空港では、天候要因への対応として、南側進入に対して最低降下高を下げるためローカライザー(LOC)を運用中

### ■但馬空港 最低降下高(MDH) 概略図【ATR42(カテゴリーB)】

(空港VOR/DME廃止後(R3.3.25以降))



- ❑ RNAV(Area Navigation : 広域航法) : 衛星信号(GPS)の緯度・経度情報を利用し、航空機が搭載する航法用機上コンピュータ等により、自機の位置を算出し任意の経路を飛行する航法
- ❑ RNP(Required Navigation Performance)進入方式 : 衛星信号(GPS)の情報を利用する進入方式 (RNAVの一種で精度が指定される)
- ❑ LOC進入方式 : ローカライザー装置からの精度の高い方位信号(横方向)を利用する進入方式

## 2.(4)就航率の向上 [天候要因への対応:今後の改善の可能性]

- 国内の空港において、静止衛星を用いた衛星航法補強システム (SBAS) によるSBAS信号を使用した「LP/LPV進入方式」の導入が国土交通省航空局により進められている

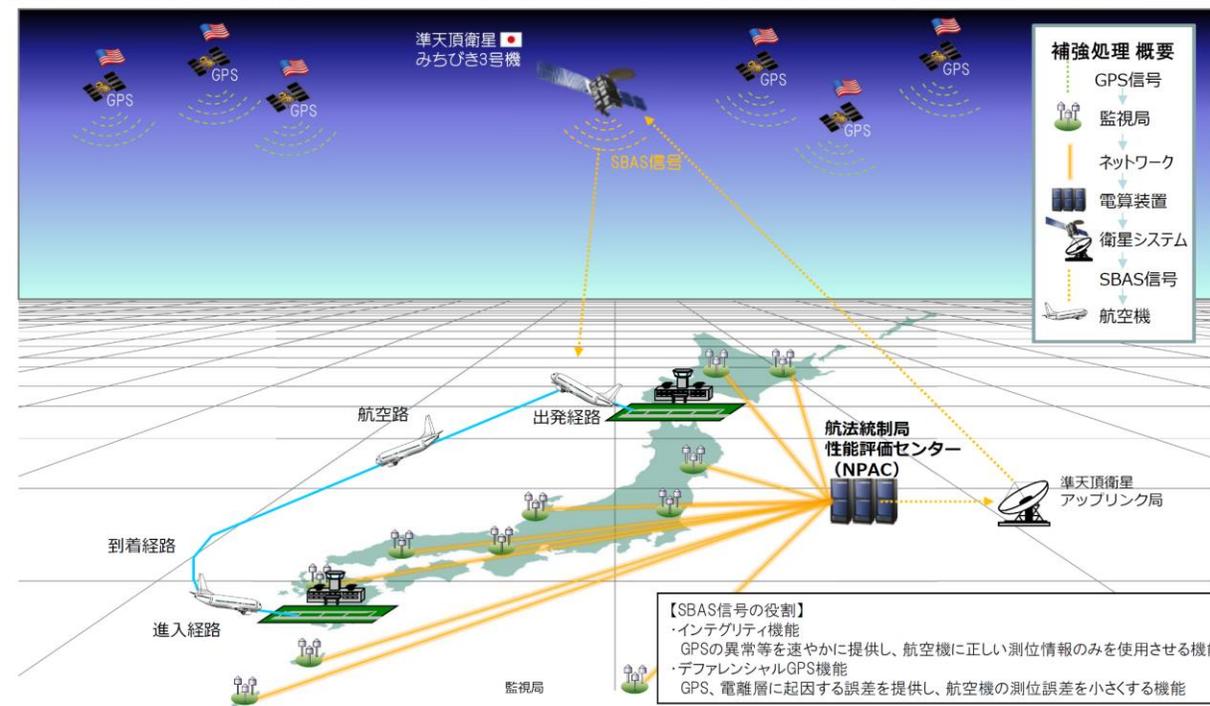
### 【LP/LPV進入方式の概要】

- RNP進入方式のうち最終進入部分の垂直方向ガイダンスにSBAS信号を使用
- R3年度から順次運用開始され、R7年8月時点で25空港にSBAS信号を使用したLP/LPV進入方式を導入  
(現在はLPV250進入方式が運用)
- SBASに利用される静止衛星(準天頂衛星みちびきのうち静止軌道に位置するもの)が3基体制となった後、より測位精度が向上したLPV200進入方式が導入される予定
- LP/LPV進入方式の導入に際し、空港内への新たな施設整備は不要

※ 現在、但馬空港ではLPV250は導入されていない(現在のRNP、LOC進入方式と比べ効果が見込まれない)

### SBAS(Satellite Based Augmentation System:衛星経由送信型衛星航法補強システム)

SBASは、監視局を用いGPS衛星の測位誤差や異常を監視し、その情報(SBAS信号)を静止衛星経由で航空機へ送信して、航法を補強するシステムである。航空機は、SBAS信号により測位性能が向上し、正しい情報のみを使用されることで、出発から到着まで衛星航法によるより安全な航行が可能となる。



出典: 航空保安業務の概要(2025) 国土交通省航空局交通管制部

- SBAS : Satellite Based Augmentation System (衛星経由送信型衛星航法補強システム)
- LP : Localizer Performance
- LPV : Localizer Performance with Vertical Guidance

## 2.(5)空飛ぶクルマの社会実装 [国の動き]

〔前回意見等〕 関係機関による空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組みが進んでおり、その発着場所として活用したい。

➤ 国では「空の移動革命に向けた官民協議会」が開催されており、技術開発や制度整備を協議

### ○国において「大阪・関西万博後の社会実装の実現イメージ」の取りまとめ(R7.8)～第11回 空の移動革命に向けた官民協議会の開催～

- 国において“空飛ぶクルマ”の実現に向けて日本として取り組んでいくべき技術開発や制度整備等を協議する「空飛ぶ移動革命に向けた官民協議会」が令和7年8月に開催
- 大阪・関西万博後の空飛ぶクルマの社会実装に向けた中長期的なビジョンとなる「大阪・関西万博後の社会実装の実現イメージ」が取りまとめられた

#### 「大阪・関西万博後の社会実装の実現イメージ(概要)」

	2025	2020年代後半 (2027/2028年) <sup>(※1)</sup>	2030年代前半	2030年代後半	2040年代
意義		①社会課題解決：大都市圏の渋滞回避、山間部や離島を含めた地方の移動の活性化、負担が増大する社会インフラの維持・管理コストの低減 ②ビジネスモデル創出：ポート設置・運営、不動産、保険、観光、MaaS、医療など新たなビジネスへの波及 ③産業基盤構築：機体開発・量産化、機体部品等のサプライチェーン構築、運航や整備等に係る人材の育成			
全体		商用運航が一部先行する地域で開始	運航頻度が高まり、導入地域が徐々に拡大	運航頻度は更に高まり、より多くの人の日常的な移動手段として定着	
大都市圏	大阪・関西万博 ●万博会場周辺の飛行を実施。 ●来場者が空飛ぶクルマの運航を間近で体感し認知度が大きく向上。	二地点間運航が限定的に開始 ●既存施設や先行して整備されるVPを活用して、主要なエリアを結ぶ二地点間運航が限定的に開始。 遊覧飛行が限定的に開始 ●ベイエリア等における遊覧飛行など、非日常的な体験として商用運航が限定的に開始。 空港アクセスの実現に向けた運用検証 ●段階的に実証を重ねられ、既存機との運航調整など官民双方でノウハウが蓄積。	新たなVPが整備され、都市間運航が拡大 ●新たなVPがいくつか整備され、大都市圏の中心都市とその数十キロ圏にある都市を結ぶ都市間運航が拡大。 遊覧飛行拡大、一部で都市内運航が開始 ●都市中心部とその周辺を結ぶ都市内運航が一部の主要なエリアにおいて開始。	大都市圏の広域的な運航ネットワークが形成 ●主要都市を拠点とする運航ルートが更に拡大。 ネットワーク間の接続 ●より広域での移動が可能に。 都市内運航が拡大し、ネットワーク化 ●屋上など多様なVP整備が進むことで、都市内運航が拡大。都市内ネットワークの原型が形成。	日常生活における自由な空の移動が当たり前の社会を実現
地方部		一部で遊覧飛行・貨物輸送の実証が開始 ●景勝地(多島美、山、世界遺産など)で、空から景色を一掃する遊覧飛行など商用運航が開始。 ●拠点間での貨物輸送の実証が開始。	観光地・空港へのアクセスや貨物輸送が開始 ●拠点VPを中心に複数のVPが設置され、遊覧飛行が拡大するとともに、観光地や空港へのアクセスに課題を抱える地域での二地点間運航が開始。 ●物流拠点にVPが整備され貨物輸送サービスが開始。	観光利用が定着、地域内運航の開始 ●全国の観光地で、周辺観光地への移動や地方空港の乗り入れなど観光利用が定着。 ●観光利用に限らない日常的な移動手段としての運航が開始。 ●運航拡大により、一部地域で広域的な運航ネットワークの原型が形成。	
利便性			救急医療・災害対応などの公的目的での導入 ●ドクターヘリの空白地域における、既存のドクターヘリの補完などとして活用。		

(※1) 一部限定的なエリアでこれに先行する可能性あり。(※2) 自家用運航については、商用運航に合わせて普及することが見込まれる。出典:国土交通省 空の移動革命に向けた官民協議会(第11回)

#### 万博まで(～R7)

「認知度向上」や「試験飛行・実証」の取組みを想定

#### 万博後(R8～)

社会実装を進めていく段階とされR9/R10以降から一部先行する地域で主に観光分野で商用運航がスタートすることが想定

今後実装に向けた動きが本格化

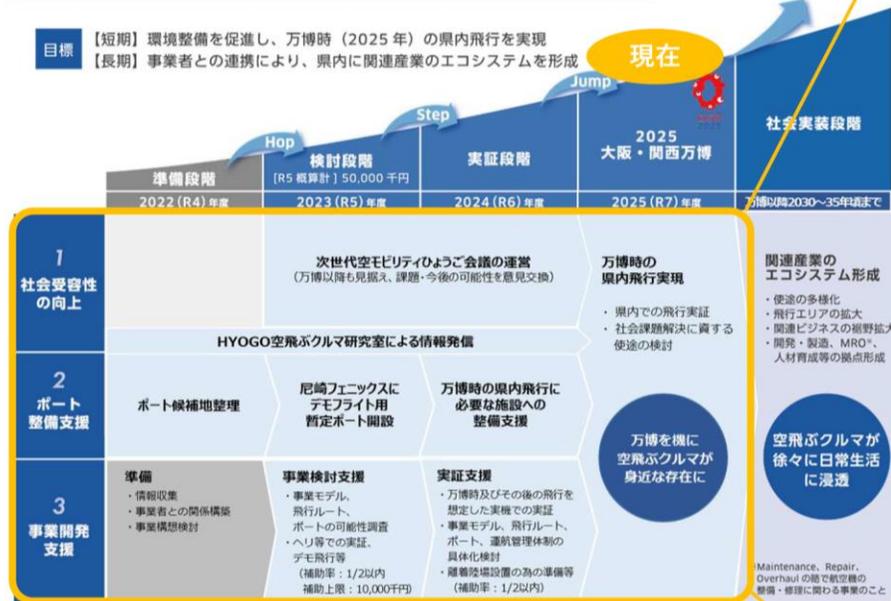
## 2.(5)空飛ぶクルマの社会実装 [兵庫県の実装]

➤ 兵庫県では、「次世代空モビリティひょうご会議」で社会実装に向けた取組を議論

### 01 兵庫県におけるこれまでの取組

- ・ 本県では「空飛ぶクルマ展開ロードマップ」に基づき、県内での社会実装に向けて取組を推進
- ・ 今後の取組を検討するにあたり、取組実績や課題等を整理

#### 空飛ぶクルマ展開ロードマップ



#### ①次世代空モビリティひょうご会議

空飛ぶクルマの現状や想定される利用シーンの検討など、将来的な社会実装に向けて取り組むべき方向性等を議論



#### ②尼崎フェニックスバーティポート

尼崎フェニックス事業用地に離着陸場を整備し、事業者の取組等を支援



#### ③機運醸成イベント

空飛ぶクルマの興味・関心を高めていただくための各種イベントを開催

#### ④HYOGO空飛ぶクルマ研究室

次代を担う若者と共に空飛ぶクルマが飛ぶ未来を構想し、研究室で生まれる提案を広く発信することで社会受容性向上を目指す



#### ⑤空飛ぶクルマ実装促進事業

県内でのビジネス展開を目指す事業者の実証や調査等の取組を支援



## 2. (5)空飛ぶクルマの社会実装〔但馬空港周辺地域における取組み〕

- コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクト推進協議会が設立 (R7.9.25)

- 会員、メンバー：  
地域の事業者、団体、空飛ぶクルマ関連事業者、行政等

- 豊岡地域における格納庫等の拠点整備に向けた調査として、但馬空港拠点化構想の検討も行われている

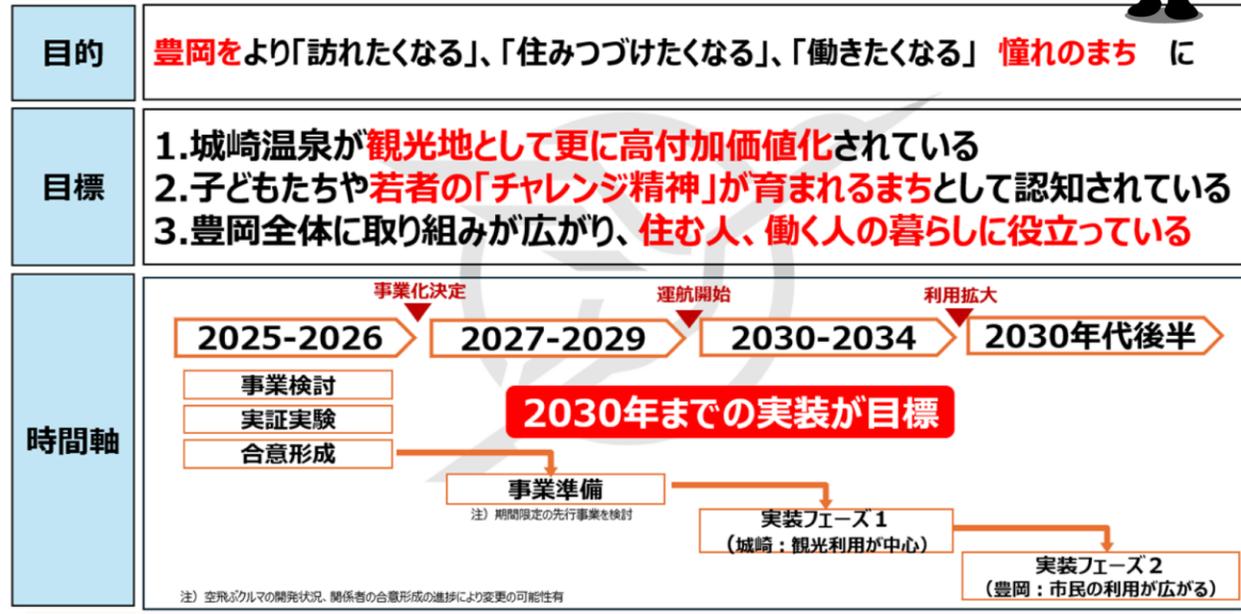
※令和7年度兵庫県空飛ぶクルマ実装促進事業に採択：兼松(株)

### コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクト

城崎地域では、2023年度から城崎のまちづくり構想を踏まえた「空飛ぶクルマ」の活用に関して、地域・事業者・自治体と一緒に、**勉強会やワークショップ**などの取組みを行ってきました。この取組みを強化し、**豊岡市全体へ展開**するために、事業者・各団体の参画を得て「コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクト推進協議会」を2025年9月25日に設立しました。



### ビジョン

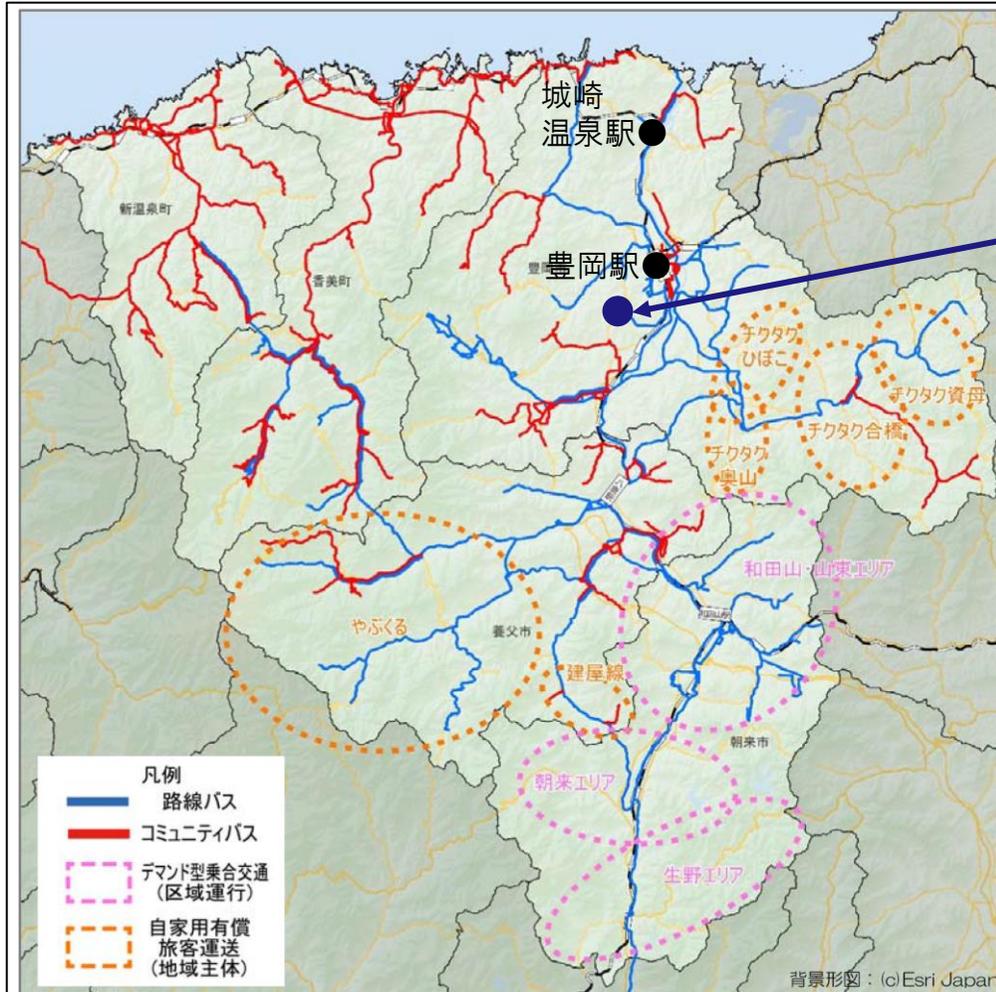


## 2.(6)二次交通の充実〔現状の交通ネットワーク(バス路線等)〕

〔前回意見等〕但馬空港の新たな利活用として、交通結節点として機能する可能性がある。

地域外の方は二次交通に路線バスを利用しており、城崎以外への対応が望ましい。

➤ 現在、但馬空港を発着する路線バスは空港～豊岡駅～城崎温泉駅の1路線



コウノリ但馬空港

出典：バス路線情報（2021年8月）※朝来市のみ2025年4月

図4-7 バス路線網

出典：但馬地域公共交通計画  
令和4年3月(令和7年6月一部改訂)を加工

# 【参考】 但馬空港の航空写真 〔南から〕



H28年5月撮影

南から見た但馬空港

# 【参考】 但馬空港の航空写真 〔北から〕



H28年5月撮影

北から見た但馬空港